

特定事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府京都市南区上鳥羽鉦立町11-5								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 堀場エステック 代表取締役社長 堀場 厚								
特定事業者の主たる業種	流体制御機器の製造・販売								
該当する事業者要件	<input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月 ～ 平成23年3月								
基本方針	1. 地球環境負荷に配慮した生産体制を気づき、製品・サービスを通して、お客様のニーズにお応えします。 2. 法規制及び社会的規範を順守し、ステークホルダーと共栄を図り、積極的に社会に貢献します。 3. 経営方針に則り、グループの価値創造のため、その達成計画を策定し、継続的改善に取り組みます。								
推進体制	IMS推進会議を6月、9月、12月及び3月に開催し進捗報告を行う。								
具体的な取組及び措置の状況	環境マネジメントシステム名称	ISO14001			IMS運用証明				
	適用範囲	株式会社堀場エステック			株式会社堀場エステック				
具体的な取組及び措置の状況	取得年月日	H18年2月28日			H20年4月18日				
	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
具体的な取組及び措置の状況	H20	生産、試験工程	生産での試験工程での地球温暖化ガスを回収中。						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度（計画） (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度（実績） (20)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	1,735.6 t	1,822.5 t	5.0 %	1,624.0 t	-6.4 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	5,322.5 t	3,993.5 t	-25.0 %	2,831.5 t	-46.8 %			
	排出合計	7,058.1 t	5,816.0 t	-17.6 %	4,455.5 t	-36.9 %			
実績に対する自己評価	受注・売上げ減少の為、減少した。今後は温室効果ガスを使用しないように努める。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	本社工場	二酸化炭素換算 (売上高)	0.392 t-CO2/百万円	0.323 t-CO2/百万円	-17.6 %	0.442 t-CO2/百万円	12.7 %		
	本社工場	二酸化炭素換算 (生産台数)	0.148 t-CO2/台	0.111 t-CO2/台	-25.0 %	0.240 t-CO2/台	62.4 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価	売上高、生産台数共に減少したため、原単位当たりの数値は増加傾向。								
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	市内産の木材の利用	(利用量)	m³	(削減量)	t	(利用量)	m³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	t	(削減量)	t
	削減量等合計			t				t	
	地球温暖化対策に資する社会貢献活動	上記の温暖化対策貢献量は具体的な取り組み内容はなし。 ・ 屋上緑化の一環として、芝生を4M2導入し、実験中。 ・ 会社外回りの清掃活動を実施							
特記事項	1. ゴミ排出量については全社的なリサイクル運動を進め最終目標としてリサイクル率100%を目指す。 2. 公用私用共に駐車時時のアイドリング禁止の啓蒙。 3. 自然エネルギーの導入を検討。（太陽光発電等） 4. 社有車輛の入替時は環境性能仕車種に変更し、運転者には低燃費走行を義務づける。 5. 健康保持増進のためにも日常生活の交通手段としてマイカーから公共交通機関利用への啓蒙の実施。								

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「地球温暖化対策貢献量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。
 7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

